



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL https://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2022年11月30日



同友会・青友会 合同交流会

青森問屋町経営同友会（同友会）と問屋町支店長・所長連絡会（青友会）の合同交流会が10月5日（水）、ホテル青森で開催され、両会会員ら43名が参加した。

同交流会は、組合員の若手経営者及び後継者で組織される同友会と、問屋町内に本社を置かない支店や営業所の団地内責任者で組織される青友会との親睦交流を目的に、2014年から年1回開催。コロナ禍のため2年間開催を見合わせてきたが、このたび3年ぶり7回目の開催となった。

同友会の柳谷会長のあいさつの後、青友会の佐々木会長による乾杯の音頭で懇親会がスタート。懇親会では、はじめに同友会で恒例のダイエツ

交流会やゴルフコンペで親睦を深める 同友会・青友会



合同ゴルフコンペ

ト格蘭プリの中間測定が行われ、その後、恒例の1分間スピーチを出席者全員で行った。今回のお題は「マイブーム」。会員各々の面白エピソードが披露され、会場は大いに盛り上がった。

10月15日（土）には両会合同のゴルフコンペが3年ぶりに開催された。青森ロイヤルゴルフクラブで行われた同コンペには会員ら22名が参加。23回目の開催となった同コンペでは、青果流通機構株の長内専務が通算2度目の優勝を飾り、ベストグロス賞のダブル受賞を達成した。

合同交流会や合同ゴルフコンペの開催などにより団地内交流が深まり、組合活動の活性化にもつながっている。

組合では、街路樹を含む歩道整備の実施に向け、インフラ再整備推進特別委員会を設置して検討することとした。

当団地の問屋町地区は造成から50年以上が経過し、道路や歩道の損傷が著しくなっている。一昨年から補助事業を活用して現状を調査し、2022年3月には道路管理者である青森市に対し、問屋町地区枝線道路の全面アスファルト舗装及び組合とのパートナーシップによる街路樹を含む

団地内の歩道整備実施に向けた特別委員会設置

歩道整備の実施を要望した。当委員会では市の関係者も委員に名を連ね、市と組合と共同での整備具体策を検討していく。



第1回インフラ再整備推進特別委員会

新聞広告

おかげさまで 55周年 向屋町 TONYA MACHI

私たちはSDGsに取り組んでいます!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標	取組
1. 貧困をなくそう	...
2. 飢餓をゼロに	...
3. 健康と長寿を促す	...
4. 質の高い教育をみんなに	...
5. ジェンダー平等を実現しよう	...
6. 安全な水とトイレを世界中に	...
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	...
8. 働きがい、経済成長、雇用	...
9. 産業とイノベーションに力をかかそう	...
10. 人や国を超えて公正で包摂的な成長を促す	...
11. 住み続けられるまちづくりを	...
12. つるむすび消費を促す	...
13. 気候変動に具体的な対策を	...
14. 海の豊かさを守ろう	...
15. 陸の豊かさも守ろう	...
16. 公正で平和な社会を築こう	...
17. パートナーシップで目標を達成しよう	...

協同組合 青森総合卸センター

組合創立55周年

2022年10月23日をもって当組合が創立55周年を迎えた。

創立記念日である10月23日には東奥日報紙朝刊に記念広告を掲載。また、55周年記念事業の一環として、卸団地の現状記録を目的にセスナ及びドローンによる空撮も実施した。

第 6 回 理 事 会

第6回理事会が10月27日(木)に問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、2022年度決算予想や青森県流通団地連絡協議会の第36回通常総会の開催について報告した。

主な案件審議は次のとおり。
案件一、新年会の開催について
案件二、2022年度第7回理事会の日程等について

組合員の健康づくり支援

インフルエンザ予防接種・健康診断

インフルエンザ集団予防接種を10月24日、26日、28日の3日間、問屋町会館で開催。組合員従業員他、近隣企業にも受診を呼びかけ、1318名が受診した。

インフルエンザは長期欠勤者の発生など企業の業務に大きな支障をきたす。そこで組合では受診しやすいよう職場に近い問屋町会館でのインフルエンザ集団予防接種を始め、参加者数も年々増加。健康維持に一役買っている。

組合員の新規事業など紹介 組合員昼食会

今年度3回目となる組合員昼食会が10月6日(木)に問屋町会館2階大会議室で開催され、組合員ら56名が参加した。

はじめに、青森県事業承継・引継ぎ支援センターが同センターの事業概要や県内の事業承継の動向について話した。また、事業承継に係る国の支援策も紹介した。

次に、企業存続・繁栄のための労働安全衛生について日本生命保険の担当者が説明した。その他、同社の全国規模

また、10月11日から14日までの4日間、第2回集団健康診断が問屋町会館で開催され、359名が受診した。組合では短命県返上に少しでも寄与すべく、市南部の健康づくりの拠点として、健康事業の充実を図っていく。



インフルエンザ集団予防接種

10月15日(土)に青森公立大学の1年生23名が、フィールドスタディの一環で当組合を見学に来た。

大学生の企業見学受入



集団健康診断

のネットワークを活用した商品やサービスを売りたい・買いたい・探したい企業の手伝いをする「NISSAYビジネスマッチング」についてPRした。同サービスは利用料無料となっており、現在約3500社が登録し、全国で約4千アイテムの情報が集まっていると話した。

つづいて、組合員である境建材(株)の村木専務が同社の新事業であるTONYACRAFTVILLE(問屋工作村)について紹介した。同事業では空き家のセルフリノベーションサポート、工具や作業スペースの貸出し、古材販売などで近年ブームとなっているDIYのサポートを行っている。最後に事務局から、交通渋滞緩和に向けた時差出勤等への協力やラインメール青森FC2022年ホーム戦への無料招待などを知らせた。



学生が物流センターを見学

や流通業について説明。その後、共同物流センターに移動して施設見学を行った。組合では、学生の企業見学受入や合同企業セミナーの開催などで問屋町や流通業の認知度向上を図り、組合員の人材確保をサポートする。

組合員昼食会

業務報告

……主要事項……

- 10月
 - 2日▽第4回問屋町緑のボランティア隊
 - 4日▽知財活用講座(意匠権編)
 - 5日▽同友会・青友会第7回合同交流会
 - 6日▽組合員昼食会
 - 11日▽第2回集団健康診断(14日)
 - ▽安協問屋町支部第2回役員会
 - 13日▽第7回問屋町合同清掃
 - 15日▽同友会・青友会第23回合同ゴルフコンペ
 - 17日▽金融審査会
 - ▽第2回問屋町従業員モーター会議
 - 24日▽インフルエンザ集団予防接種(1日目)
 - ▽問屋町経営同友会第4回役員会
 - 26日▽第1回インフラ再整備推進特別委員会
 - ▽インフルエンザ集団予防接種(2日目)
 - 27日▽第6回理事会
 - 28日▽インフルエンザ集団予防接種(3日目)
- …問屋町…
 - ビジネススクール…
 - 13日▽上司への「報・連・相」
 - 18日▽若手従業員仕事力向上セミナー
 - 19日▽SDGsセミナー
 - 20日▽伝わる資料のつくり方

暖かく快適な窓迎をお届けします!

冷え対策は、窓から。

温活

長内サッシ工業株式会社

青森市問屋町2丁目12-35
TEL 017-(728)-1311

MADO ショップ

青森中央店

地球と暮らしにやさしい快適な住環境を目指して

CHOFU

代表取締役社長 種田 清隆

株式会社 長府製作所

本社 山形県下関市長府扇町2-1
青森営業所 青森市問屋町二丁目18-18

TEL 083-248-1111
TEL 017-738-4141

100日ウォーキング終了

7月24日からスタートした「問屋町100日ウォーキング」が10月31日で終了した。今年で4回目となる同イベントには、23社から59チーム、177名が参加。組合が貸与した万歩計を装着し、3名1組で100日間のチーム合計歩行数を競い合った。競技の結果、丸大堀内(株)のMRD43チームが初優勝を飾った。昨年に比べて記録が大きく伸び、優勝チームの1人あたり1日平均歩行数は2万5千歩(昨年2万歩)を超え、個人のトップは、1日平均3万2千歩も歩いた。全体を見

ても平均歩行数が増加し、期間中1日平均1万歩をクリアする百万歩賞も38名(昨年31名)がクリア。歩くことに対する参加者の意識の高まりが結果からも見て取れる。

第4回問屋町100日ウォーキング結果

Table with 5 columns: 順位, 会社名, チーム名, 総歩行数, 1人あたり1日平均歩行数. Rows include 優勝 (丸大堀内株), 準優勝 (株金竹成家), 第3位 (青森総合警備保障株).

Table with 5 columns: 順位, 会社名, 参加者, 総歩行数, 1日平均歩行数. Rows include 第1位 (丸大堀内株), 第2位 (青森総合警備保障株), 第3位 (丸大堀内株), 第4位 (株金竹成家), 第5位 (株金竹成家).

年賀葉書・年賀切手の販売 問屋町簡易郵便局

【販売期間】 2022年11月1日～2023年1月10日 【年賀郵便物引受開始日】 2022年12月15日 【お年玉くじ抽選日】 2023年1月15日 【お年玉商品引換期間】 2023年1月16日～2023年7月18日 【購入方法】 窓口、電話または専用の注文用紙で受付。 ※販売数に限りがあり、なくなり次第終了となる商品もあるため、お早目にご購入ください。

経済雑感

青森中央学院大学 経営法学部 教授 竹内 紀人

第65弾となる今回の経済雑感は、青森中央学院大学の竹内教授にご寄稿いただいた。

昨年の春から、教員として大学に勤務している。地方銀行に就職した40年前、第二の人生として教壇に立つことなど、予想もしていなかった。人生百年時代にあつて、社員が60歳以降の職業人生をどのように過ごすかは、精神的にも経済的にも非常に大きな問題である。今、学生に囲まれながら仕事をしている幸運に感謝するばかりである。

地方銀行の仕事は、地域企業の発展や個人生活の向上を目指し、顔の見える距離感で寄り添う営業がメインである。私の場合は、銀行員生活の半分が、直接的に営業成績を求められる仕事、残り半分は地域経済を俯瞰する仕事に携わってきた。研究だけでなく営業だけでもない、リアルを知る地銀エコノミストとしての二刀流の経験が今の仕事に役立っていることは間違いない。



青森中央学院大学 経営法学部 教授 竹内 紀人氏

大学での暮らしが1年半を過ぎ、今更ながら気付いたことがある。産官学金連携の中で地域のありようを考えると、意味では、居場所が「金」から「学」

に变化しただけで、実は本質的な仕事は前職とほとんど変わっていないことだ。もちろん変化という要素が加わったことで、そのためのエネルギー消費が増え、一方で、彼らの成長をうかがい知る新しい楽しみを得た。これは大きな変化といえよう。大学ではキャリア支援担当を命じられたため、青森総合卸センターに所属する組合員企業の皆さまとの交流も、就職関連をメインに増加した。人口減少が進み、若年労働供給力の先行きに不安が大きくなる中、しっかりと学生を鍛え、皆さまの期待に応えら

れる人材を輩出することは、地域の大学の使命である。地域連携のパートナーとして、また、地域学の教員として、ますます皆さまとの絆を強めていきたいと思う。ひとつだけ確信していることがある。特別な資質を持った学生の能力を高めるサポートはもちろん大切だが、普通の学生の知識レベルや人間力レベルをきちんと引き上げていかないと、地域の持続可能性が先細りになってしまふ。同時に、地域の生活を最前線で支えている皆さまの企業が進化を続けていかないと、地元を愛している学生の活躍の場もしぼんでいく。私が「産」と「学」の連携を強めていきたいと願う所以である。(つづく)

事務機・事務用品の総合商社



〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目3-34 株式会社 金入 青森支店 TEL 017-739-9001 FAX 017-739-9011

我が腕に封印されし 暗黒竜が疼く...

株式会社ガスデン 青森市第二問屋町4丁目2-26 TEL: 017-739-7422 E-MAIL gasuden@k4.dion.ne.jp FAX: 017-739-8186

一般区域貨物運送業 輸送のことなら信頼と実績の 三協運輸株式会社 〒038-0023 青森市大字細越字栄山555-1 TEL 017-739-1611 FAX 017-739-1612

産業廃棄物・一般廃棄物収集運搬業 快適な環境作りに奉仕する 三協クリーンサービス株式会社 〒038-0023 青森市大字細越字栄山555-1 TEL 017-739-6426 FAX 017-739-1612

市場開設50周年

問屋町に隣接する青森市中央卸売市場が開設50周年を迎え、10月16日(日)に同市場で記念式典を挙行政した。式典には当組合の西理事長も来賓として出席した。

当日は開設50周年を記念して市場まつりも5年ぶりに開催された。同市場では普段は一般向けの販売は行っていないが、野菜や果物、水産物や花などを特別価格で販売した。そのほか、マグロの解体及び即売会、無料のホタテ釣りコーナー、フラワーアレンジメント教室、ステージではプラスチックやねぶた囃子の演奏などが披露されるなど多

彩なイベントが行われ、50周年を祝った。

市場まつりは午前8時30分の開場の前から長蛇の列ができ、史上最多となる1万6千人の来場者で会場は大いに賑わっていた。



市場開設50周年記念式典

SDGsについて

問屋町ビジネススクールがポリテクセンター青森との共催で、「中小企業が取り組めるSDGsの取り組み」セミナーを10月19日(水)に問屋町会館で開催した。

組合では昨年度よりSDGs推進事業に積極的に取り組んでいる。その一環として、組合員のSDGsに関する理解を深めてもらうために同セミナーを開催し、組合員の受講料は組合で負担して参加を促した。セミナーは組合員従業員11名が受講したほか県内各地から合わせて15名が参加した。



SDGsセミナー

黒田氏が講師を務めたセミナーでは、SDGsの概要や中小企業が取り組める取り組みを紹介したほか、自社が導入する際の開発目標の立て方や展開方法まで詳しく解説した。

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、今年7月に組合に加入された東和電材(株)の榊社長にお話を伺った。

同社は、弘前市で電気工事業と電設資材卸売業を併合した東北電業(株)として昭和23年に設立。その後、電設資材卸売部門を分離し、青森市に東和電材(株)を設立した。青森県から首都圏までの東日本一円に販路・拠点を拡大し、地域に暮らす人々の安心安全・快適空間づくりを目指している。

「当社は、戦後日本のインフラの中で電気が非常に重要視され、これに携わったことがスタートです。設立

当時は材料の確保が難しかったため、製造メーカーが多く集まる名古屋などに買い出しに行っていました。最近では、少子高齢化や人口減少により個人住宅の数は以前より減っています。昔と比べるとオール電化住宅の普及もあり、電設資材のウエイトは増えています。また当社はエンジニアリング部門を30年前から強化してきました。電気だけではなく通信、制御、空調を一体的に作業できるエンジニアの人材育成を進めてきたことで、技術面において他社との差別化を図ってきました。



東和電材(株) 代表取締役社長 榊 美樹 氏

問屋町の印象は「移転前は道路が狭く車を運転するのも注意が必要でしたが、問屋町にきて道路が広くなり、とても安心感があり良かったと感じています。また今後は組合

「社是にもなっている『熱意と誠意』です。先代が非常に大事にしていた言葉で、私も経営理念としてきました。今後は相手に熱意を感じさせるような熱意を持って誠実に仕事をしたいと思っています。」と締めくくりました。(71歳)

「と力強く語る。現在取り組んでいることについて伺うと「ラインメール青森FC」というサッカークラブの運営を行っています。今後は組合員の皆さんと選手との交流の場を作り、応援してもらえれば会が増えるかなと思っています。青森県のサッカーがより普及すれば嬉しいですね。」と微笑む。

員として様々な活動や交流を一緒にしていくことで、社員の意識も良い方向に変わっていくのではないかと期待しています」と話す。プライベートについては「気の置けない友人とゴルフをするのが一番楽しいですね。冬はカービングスキーをします。初めて滑った時はスキーってこんなに楽しいんだと改めて思いました」と笑う。

編集後記

おかげさまで組合創立50周年を迎えることができました。組合員をはじめ、関係各位のこれまでのご支援に深く感謝いたします。せっかくの機会なので団地設立当初に発行された記念誌をながめてみました。組合の設立は昭和42年10月、そこから43年度中の指定卸地承認を目指し、11月中旬に青森県を通して中小企業振興事業団(当時)に予備申請を提出する必要があった。その書類は長期計画の策定、組合員個々の償還計画など膨大な量で、事務局員は数日徹夜作業を行ってまとめたそうです。当時はパソコンなどあるはずもなく、そろばんと手書きの文書で作成する労力は計り知れませんが、高度化資金の助成を受けるために指定卸地の申請が全国から多数あり、その年の事業団予算の2.5倍もの応募があったそうです。初代後藤理事長を先頭に、組合役員は青森県と体となり指定獲得に向けて強力に運動を行いました。その甲斐もあり昭和43年7月に無事に指定承認を受けるのですが、この間わずか9ヶ月。先達の皆様は改めて敬意を表します。さて、そこから55年。卸地は青森市最大の流通拠点として大きく発展しましたが、当時のインフラも55年の時を経ました。特に問屋町地区の道路、歩道は経年劣化が進んでいます。昨年度までの商団連支援事業を活用した調査事業を経て、今年度はインフラ再整備の具体策を検討すべく特別委員会を立ち上げました。道路管理者である青森市にもメンバーに入っていたいただき、歩道約8km、街路樹374本の今後の取扱いについて知恵を絞っていきたく思います。(小田切)

電設資材総合商社 本社 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町4丁目1-20
 ☎017-771-9000 FAX017-771-9010

東和電材株式会社

【営業ネットワーク】
 ■青森地区／青森・むつ・弘前・五所川原・八戸・三沢・十和田
 ■秋田東和電材／秋田・大館・能代・大曲・本荘・横手 ■埼玉地区／大宮・川越・行田・浦和・所沢・川口